

# 戸矢研究室

## [ 人文知の工学への展開 ]

生産技術研究所 人間・社会系部門 / 豊島ライフスタイル寄付研究部門

文化をめぐる人文と工学の研究グループ

Department of Human and Social Systems

Toyoshima Endowed Chair for Lifestyle Research / Research Group on Culturally-Informed Engineering

i

### 社会・文化の次元を加えた新たな文理融合の推進

文理融合の効果的な実現のためには、全体を俯瞰し、効果的なマッチングを考え、実践するという三段階のステップが必要になります。こうした、異分野を緩衝する中間地帯の設計こそ重要であると考え、広く文化・社会を念頭に置き、実務家も加えたあらたな文理融合のあり方を検討し、展開しています。文系出身として実務経験を経て、さらに文理の全領域を学ぶ東大EMP（エグゼクティブ・マネジメント・プログラム）を修了した経験を活かし、EMP修了生の実務家有志の協力も得つつ、真に有効かつダイナミックな領域横断と連携の実現に努めています。2019年7月より開催している「文化×工学研究会」とともに、2020年4月に発足した「文化をめぐる人文と工学の研究グループ」にて、さらなる発展に向けて取り組んでいます。

### 近未来ライフスタイルを想定したプロトタイプ制作

#### （豊島ライフスタイル寄付研究部門）

同部門を担当し、近未来ライフスタイルを想定した上で、生研に蓄積されたシーズを活かしたプロトタイプ（コンセプトモデル）の制作に価値創造デザイン推進基盤（DLX）との協働のもとチームとして取り組んでいます。文系の知見をデザインに活かします。

### 歴史研究の工学・社会への応用

元々の専門である、人々の美意識・身体意識をめぐる社会・文化史や、ファッション・化粧品などの感性産業の経営史について、継続して研究を行っています。同時に、上記のように蓄積された人文知の工学および社会への展開に取り組んでいます。



本質的に工学に関連するテーマで、文化や芸術に関連する領域の第一線で活躍されている講師を学内外から招聘する「文化×工学研究会」を毎月、学内教職員およびEMP修了生にオープンな形で実施(左・第1回)。豊島ライフスタイル寄付研究部門にて制作し、2019年度オープンキャンパス「もしかする未来 in 駒場」展で展示されたプロトタイプ「HYOHI」（中左・Photo Takumi Ota）。「文化×工学研究会」講師・岡田暁生先生（京都大学大学院教授・西洋音楽史）による資料「中世のロンドン」（中右）。博論では資生堂初代社長・福原信三（1883-1948）を対象とし、銀座の街づくりの歴史的経緯にも注目した。同氏撮影による写真集『巴里とセイヌ』（1922）より（右）。